

(4) 心の状態

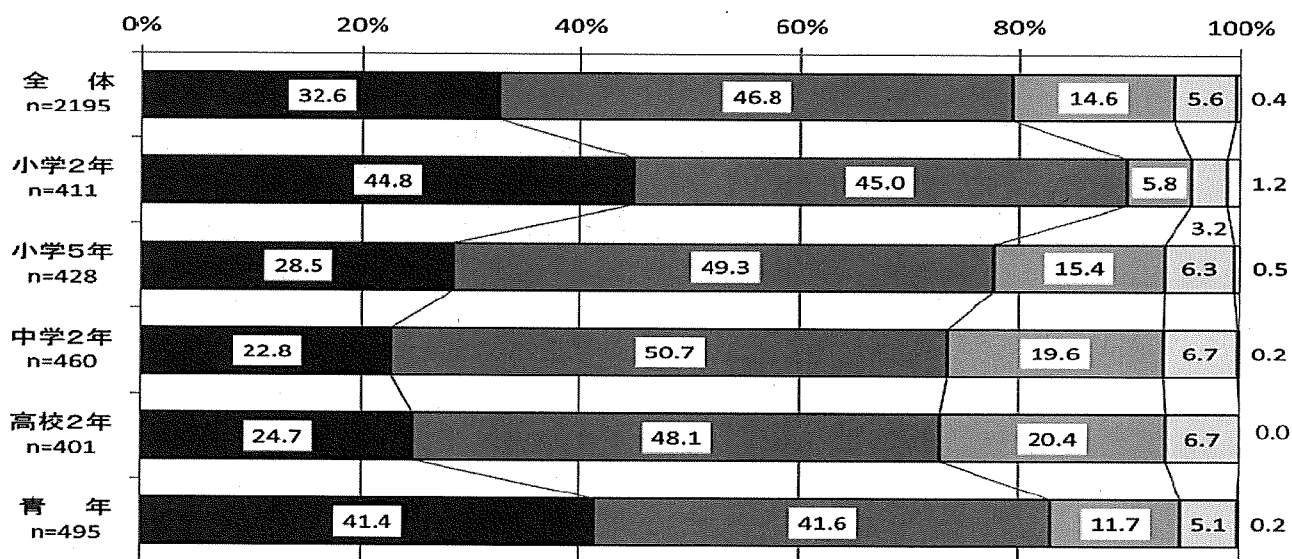
ア 自己肯定感 (自分にはよいところがあると思う)

【問】

あなたは、自分にはよいところがあると思いますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

どの年代でも「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせると7割を超えている。年代別に見ていくと、「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせて一番多かったのは小学2年であり、次に青年、小学5年と続いている。一番少なかったのは高校2年である。

自分にはよいところがあると思う



- ある(はい)
- どちらかといえば、ある(どちらかといえばはい)
- どちらかといえば、ない(どちらかといえはいいえ)
- ない(いいえ)
- 無回答

※ () は青年の選択肢

イ やればできると思った体験の有無（平成17年度調査との比較）

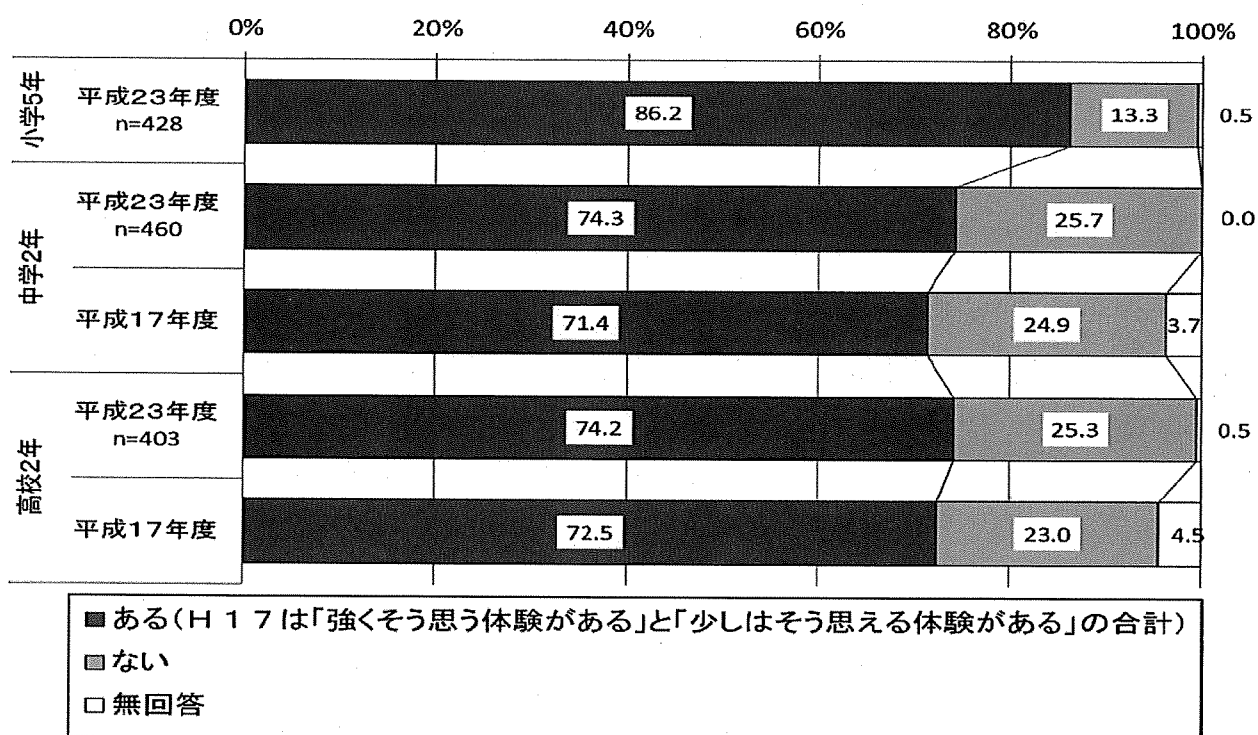
【問】

あなたは「自分もやればできるんだ」と思えるような体験をしたことがありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

平成23年度、平成17年度とも「自分もやればできるんだ」と思えるような体験が「ある」割合は、全ての年代で7～8割であった。

平成23年度と平成17年度を比較した場合、「自分もやればできるんだ」と思えるような体験が「ある」中学2年と高校2年は、わずかではあるが増加している。しかし、「ない」と回答している中学2年と高校2年もわずかに増加している。

やればできると思った体験の有無（平成17年度調査との比較）



※小学5年には、平成17年度に比較できるデータがない。

ウ やればできると思った体験の内容 (平成17年度調査との比較)

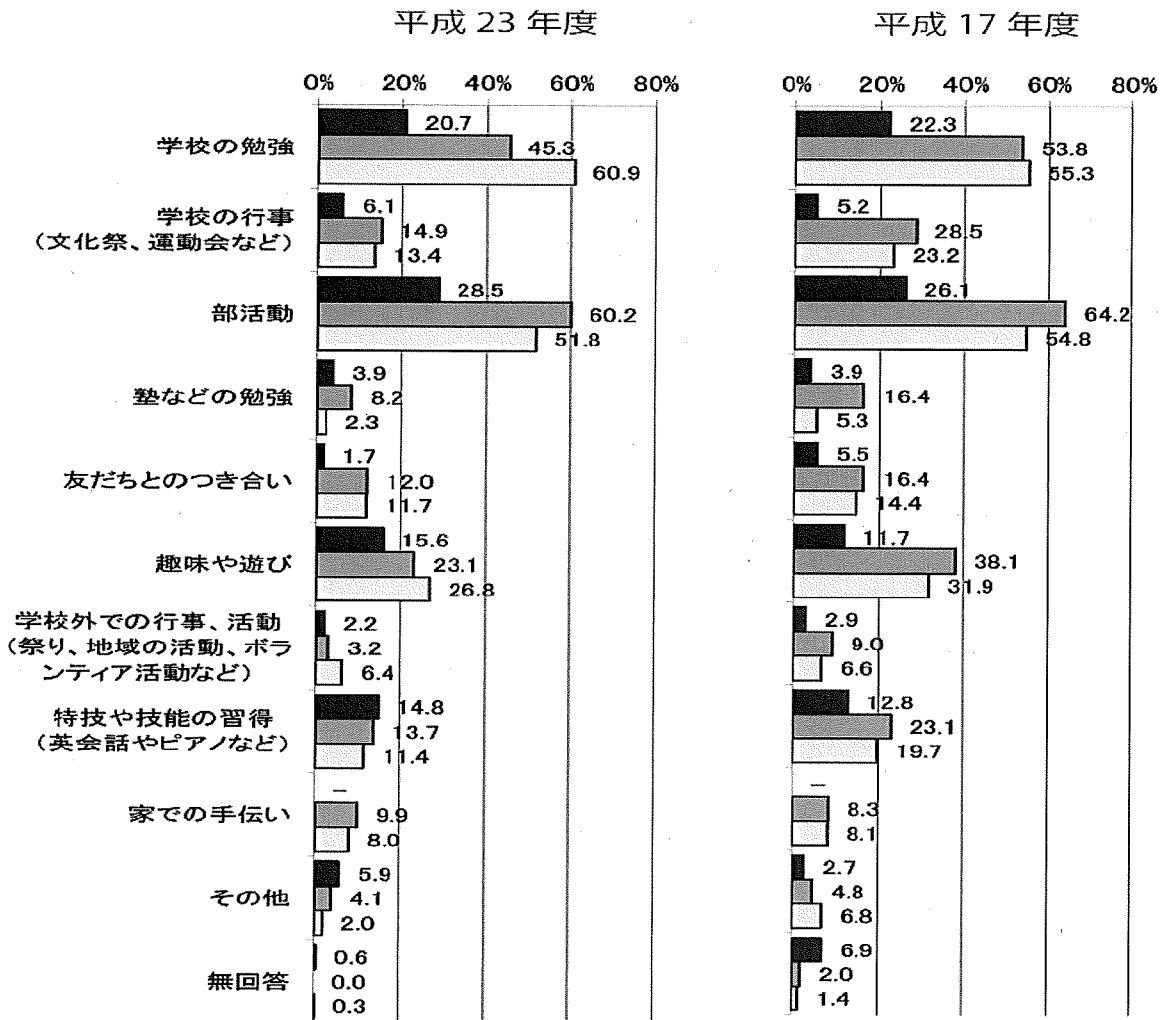
【問】

自分もやればできると思った体験の有無について、「ある」を選んだ人に質問します。どんなことで「自分もやればできると」思いましたか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

平成23年度と平成17年度を比較すると、どの項目でも減少傾向である。

平成23年度が増加している項目は、「その他」を除き、小学5年の「学校の行事(文化祭、運動会など)」、「部活動」、「趣味や遊び」、「特技や技能の習得など(英会話やピアノなど)」、中学2年の「家での手伝い」、高校2年では「学校の勉強」となっている。

やればできると思った体験の内容 (平成17年度調査との比較)



■小学5年 n=358 □中学2年 n=342 □高校2年 n=299

■小学5年 □中学2年 □高校2年

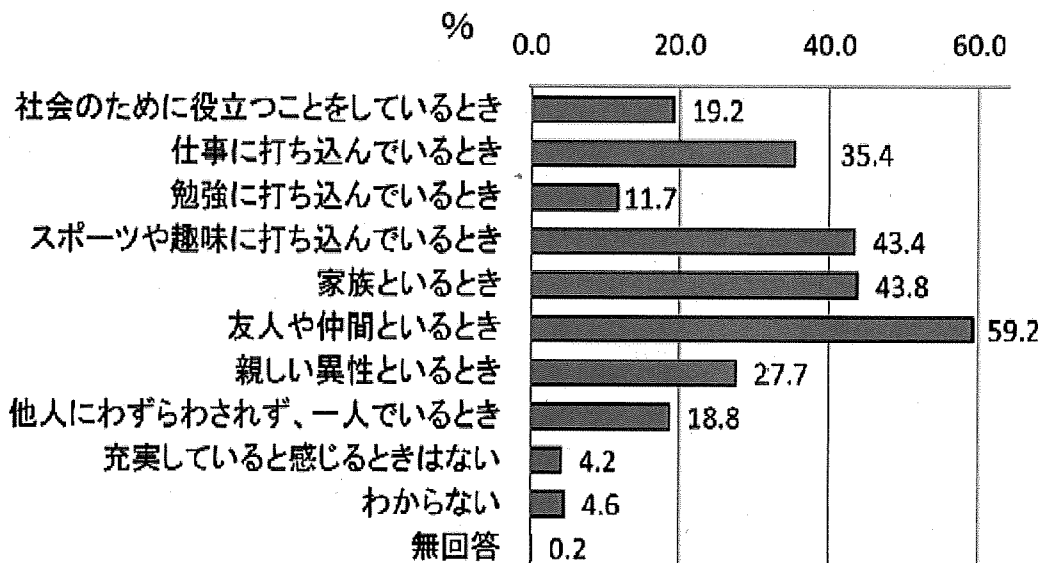
エ 青年が充実していると感じるとき

【問】

あなたは、どんなときに充実していると感じますか。次の中からあてはまるものを、いくつでも選んで○をつけてください。

「友人や仲間といるとき」が約6割で最も多く、次いで「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」「家族といるとき」が約4割であった。

青年が充実していると感じるとき (n = 495)



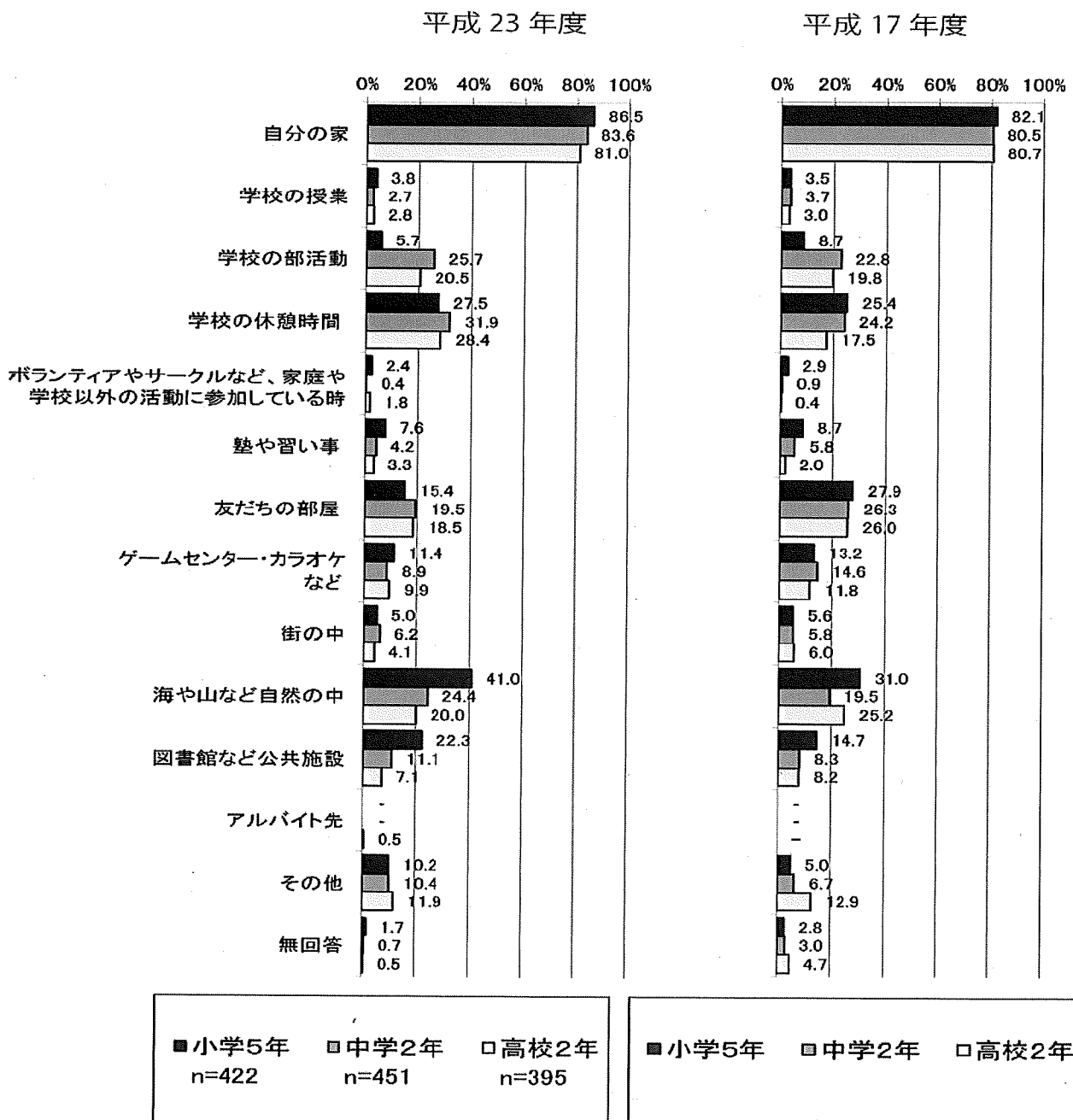
オ 居心地のいい場所（平成17年度調査との比較）

【問】

あなたが居心地がいいと思う「ところ」・「とき」はどれですか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

平成23年度と平成17年度を比較してどの年代でも増加している項目は、「自分の家」と「学校の休憩時間」である。そして、同じくどの年代でも減少しているのは、「友だちの部屋」と「ゲームセンター・カラオケなど」である。

居心地のいい場所（平成17年度調査との比較）



カ 悩みの内容(平成17年度調査との比較)

【問】

悩みの有無について、「ある」を選んだ人に質問します。それはどんなことについてですか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

平成23年度と平成17年度を比較して見ると、「進学や就職のこと」と回答している高校2年が平成17年度と比べて2倍以上に増加している。また「勉強や成績のこと」と回答している小学2年、中学2年、高校2年も増加している。

「家族のこと」については、全ての年代で減少している。特に中学2年と高校2年は半分以下に減少している。

悩みの内容(平成17年度調査との比較)

(単位：%)

選 択 肢	進学や就職のこと	勉強や成績のこと	友だちのこと	家族のこと	先生のこと	家庭の経済のこと	自分の性格のこと (小2：自分のこと)	自分の体のこと	異性のこと	
小学2年	平成23年度 n=176	—	38.1	29.5	34.1	4.0	—	22.2	25.0	—
	平成17年度	—	33.6	39.9	37.9	4.8	—	33.6	14.7	—
小学5年	平成23年度 n=164	20.1	34.8	42.1	17.1	5.5	5.5	22.6	15.2	7.3
	平成17年度	4.8	36.8	37.6	29.2	11.9	1.9	21.2	6.3	7.8
中学2年	平成23年度 n=195	34.9	56.4	35.9	14.4	1.5	8.7	17.9	8.2	11.3
	平成17年度	19.2	55.9	43.2	31.6	15.4	3.9	24.4	7.9	6.8
高校2年	平成23年度 n=284	62.7	53.2	21.1	9.2	1.1	9.2	20.8	15.1	15.8
	平成17年度	31.2	47.9	35.4	31.5	11.6	4.3	32.7	12.2	12.4
青年	平成23年度 n=457	—	—	3.9	6.3	—	—	—	—	9.8

※青年の「家族のこと」は、「親子関係」(10人)、「嫁姑関係」(10人)、「夫婦関係」(9人)の合計。
 ※青年には、平成17年度に比較できるデータがない。

選 択 肢		部活動の こと	遊びのこ と	結 婚	就職や転 職	仕 事	金 銭	そ の 他	無 回 答
小学 2年	平成23年度 n=176	—	16.5	—	—	—	—	13.1	6.3
	平成17年度	—	40.9	—	—	—	—	9.8	1.2
小学 5年	平成23年度 n=164	14.0	9.1	—	—	—	—	4.9	0.6
	平成17年度	11.9	21.6	—	—	—	—	5.8	1.6
中学 2年	平成23年度 n=195	25.6	—	—	—	—	—	4.6	1.5
	平成17年度	32.1	—	—	—	—	—	3.2	1.6
高校 2年	平成23年度 n=284	26.1	—	—	—	—	—	1.4	0.0
	平成17年度	31.3	—	—	—	—	—	4.4	0.7
青年	平成23年度 n=457	—	—	11.8	29.5	30.4	24.9	12.7	1.3

キ 児童生徒の悩みの相談相手

【問】

あなたは、悩みや心配なことを、だれに相談していますか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

一番多かった項目は、小学2年と小学5年では「母」であり、中学2年、高校2年、青年では「友だち」である。

悩みの相談相手

(単位：%)

選択肢	父	母	兄弟、 姉妹	祖父、 祖母	おじ、 おば	担任の先生 (小2：先生)	保健室 の先生	その他の先生 (教育相談、 部活動などの先生)	先輩	友だち
小学2年 n=408	40.0	70.3	17.2	15.7	2.2	19.6	-	-	-	31.6
小学5年 n=421	27.3	63.2	11.2	13.1	1.4	6.4	1.4	1.4	1.0	34.2
中学2年 n=456	12.5	43.4	11.4	3.9	1.3	8.6	1.8	2.6	7.7	50.2
高校2年 n=397	10.1	34.3	10.6	1.8	0.5	3.8	2.0	2.8	8.1	64.0
青年 n=482	11.8	41.3	17.2	2.3	0.2	1.7	-	-	1.9	47.7

選択肢	医師・ 看護師 など医療 関係者	役所の 相談機 関	その他 の相談 機関	電話相 談	相談相 手が ない	誰かに 相談し ようと思 わない	恋人・ 配偶者	職場の 上司	職場の 同僚	その他	無回答
小学2年 n=408	-	-	-	-	-	9.3	-	-	-	4.2	0.2
小学5年 n=421	0.2	-	-	0.5	4.0	15.0	-	-	-	5.2	2.6
中学2年 n=456	0.2	0.2	0.0	0.2	2.6	23.9	-	-	-	2.6	4.2
高校2年 n=397	0.5	0.0	0.3	0.3	4.0	18.1	-	-	-	2.3	3.0
青年 n=482	1.9	2.3	-	-	4.4	11.0	31.1	5.4	12.9	1.2	1.0

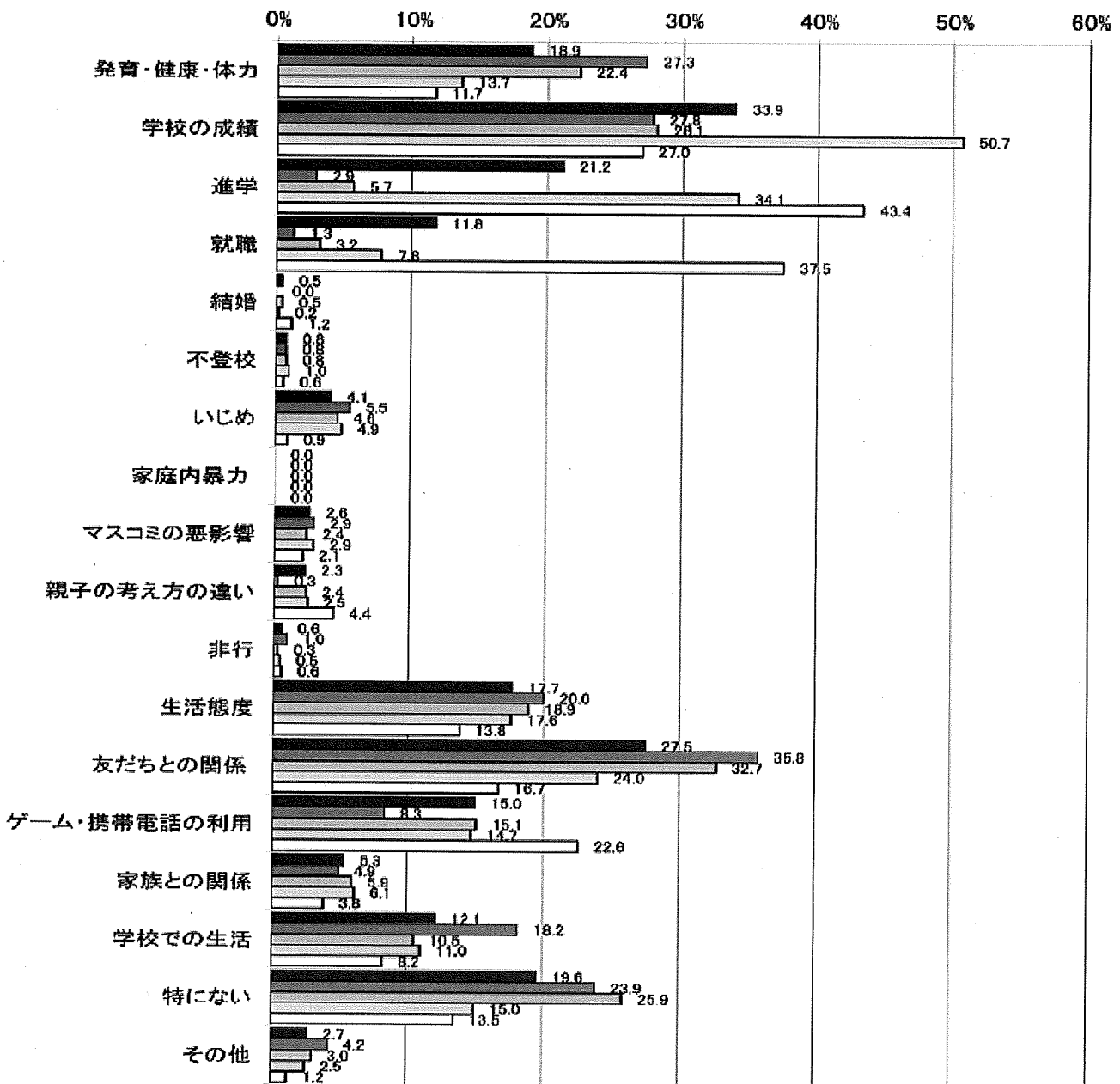
ク 子どもについての保護者の悩み

【問】

あなたは、お子さんについて、悩みや不安はありますか。次の中からあてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

「学校の成績」はどの年代でも1/4以上の方が悩みにあげており、特に中学2年の保護者は半数を上回っている。小学校では「友だちとの関係」が多いが、中学校・高等学校になると「進学」「就職」が多くなっている。

子どもについての保護者の悩み



■全体 n=1504 ■小学2年 n=385 □小学5年 n=370 □中学2年 n=408 □高校2年 n=341

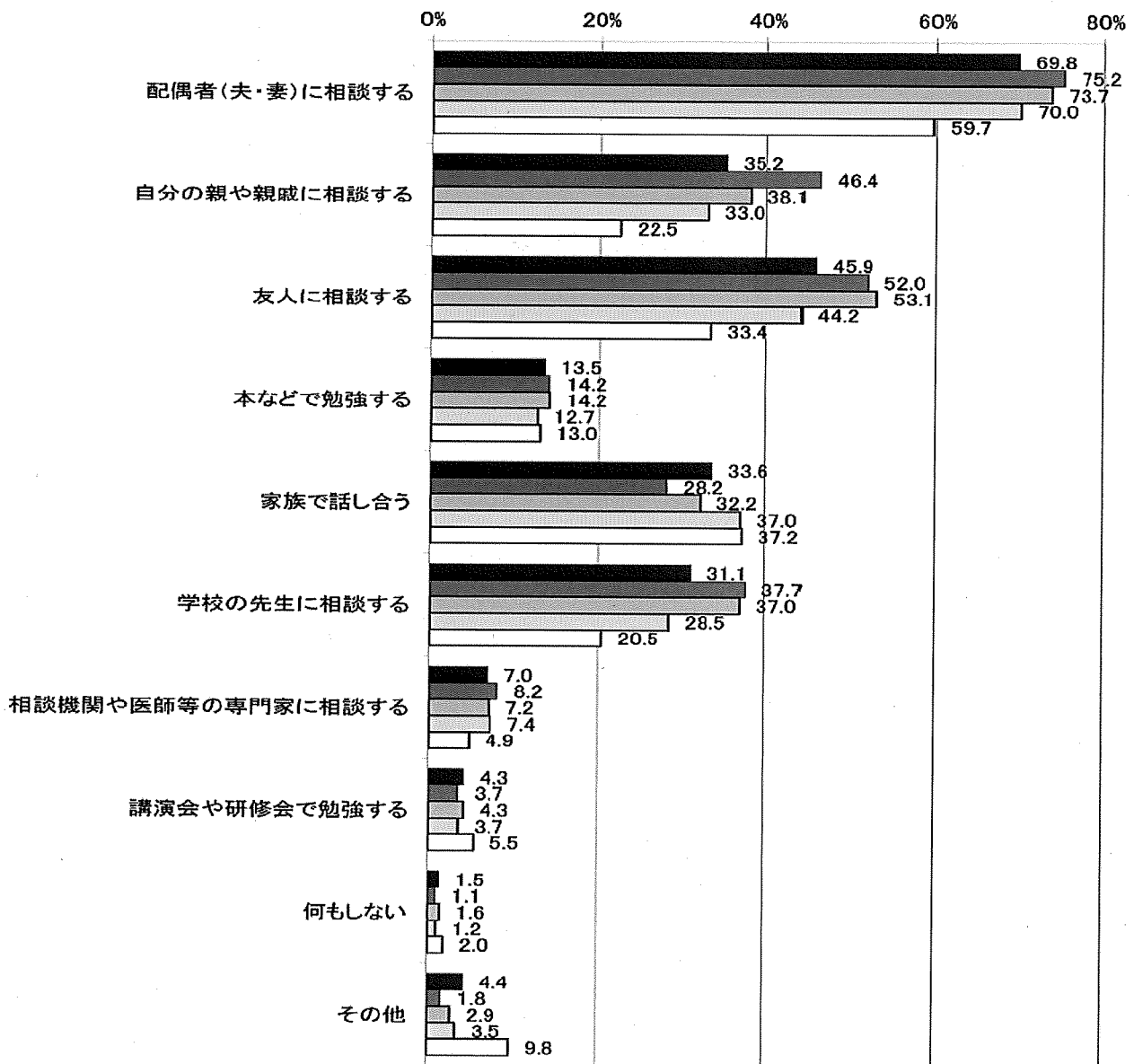
ケ 保護者の悩みの対応法

【問】

お子さんに対する悩みがあるときはどのようにしていますか。次の中からあてはまる番号をいくつかでも選んで○をつけてください。

「配偶者に相談する」が7割程度、「自分の親や親戚」、「友人」、「学校の先生」に相談するがそれぞれ3～4割程度であるのに対し、「相談機関や医師等の専門家」へ相談する保護者は約7%に過ぎない。

子どもについて悩みがあるときの保護者の対応法



■ 全体 n=1502
 ■ 小学2年 n=379
 □ 小学5年 n=373
 □ 中学2年 n=403
 □ 高校2年 n=347

(5) 進路・職業観

ア 希望する最終学歴（平成17年度調査との比較）

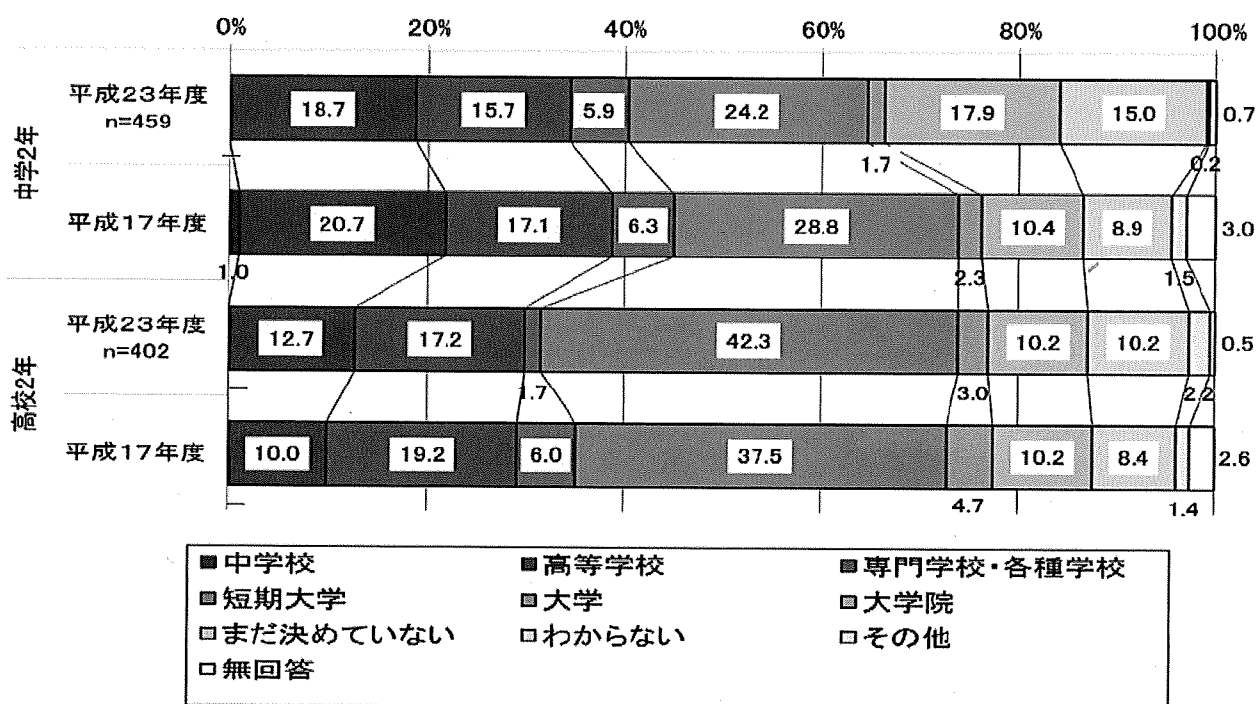
【問】

あなたの進学最終目標はどこまでですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

平成23年度と平成17年度を比較すると、中学2年で増加している項目は「まだ決めていない」と「わからない」である。

高校2年においては「高等学校」と「大学」、「わからない」が増加している。

希望する最終学歴（平成17年度調査との比較）

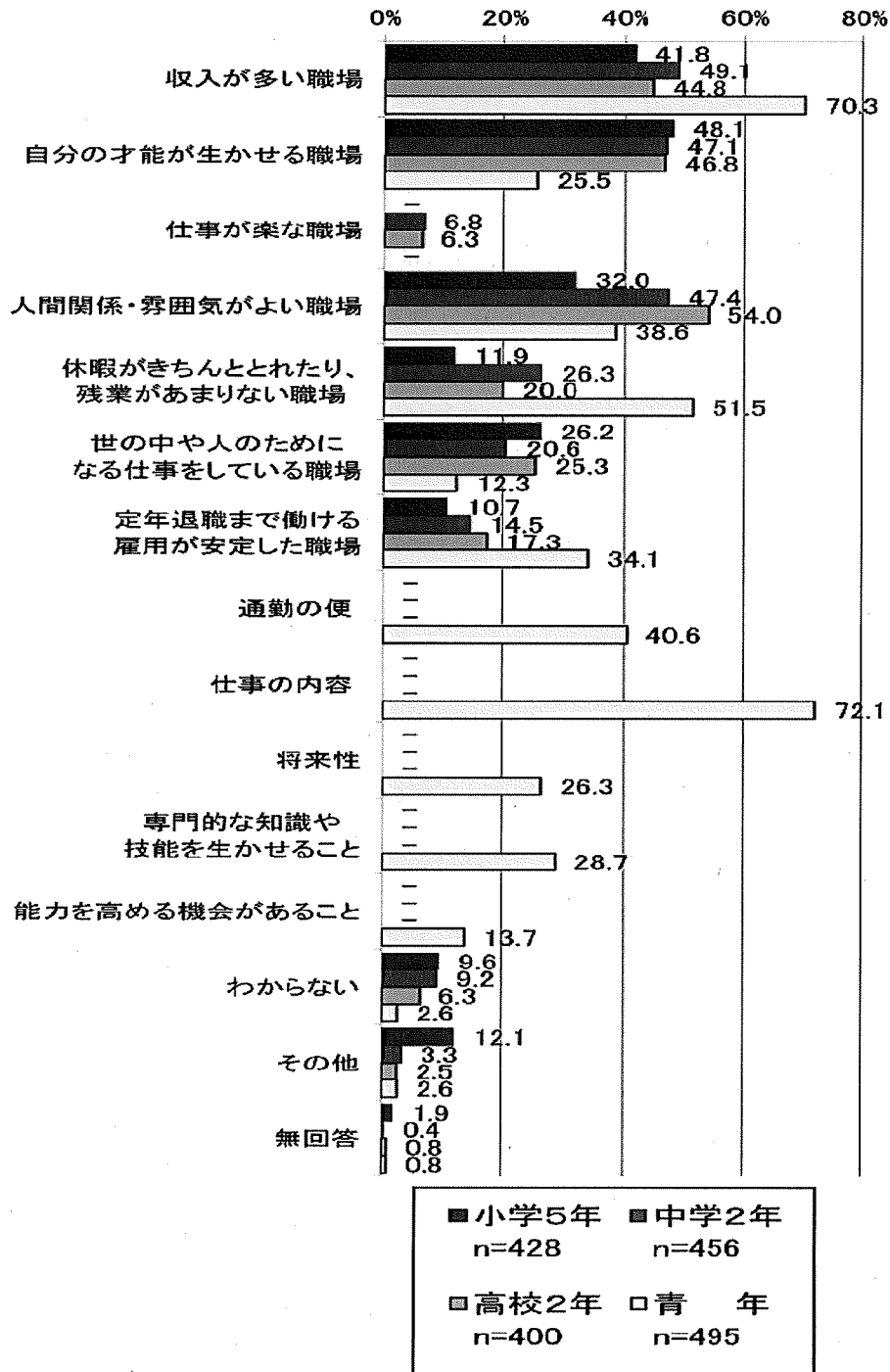


イ 職業選択の基準

【問】

あなたは、将来どのような職場で働きたいと思いますか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

職業選択の基準



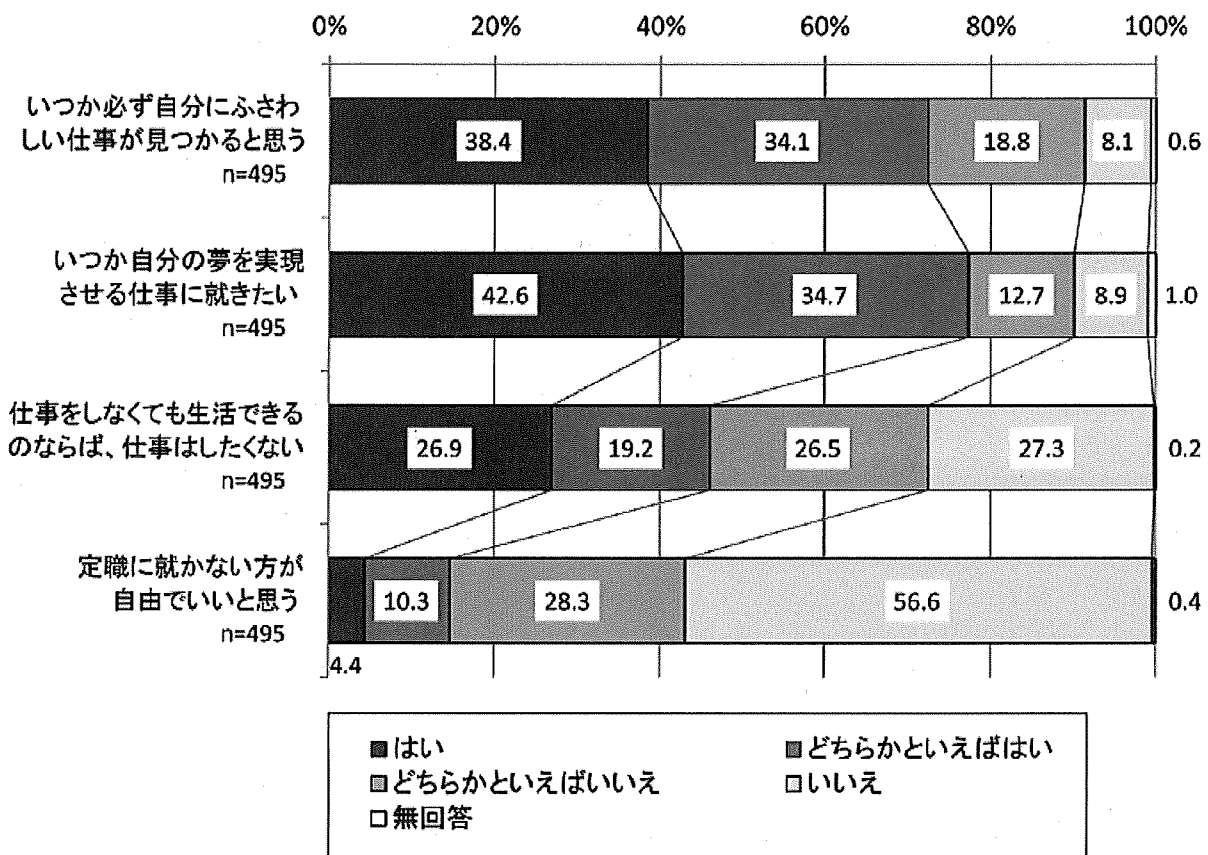
ウ 青年の働くことについての考え方

【問】

次の事柄について、あなた自身にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせた割合が一番多い項目は、「いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい」で8割近くである。二番目に多い項目は「いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う」で、これも7割を超えている。反対に「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせて一番少なかった項目は、「定職に就かない方が自由でいいと思う」である。

青年の働くことについての考え方



(6) 広義のひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群の比較

内閣府の「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）（平成22年7月）」を参考に、広義のひきこもり群・ひきこもり親和群と、それらに該当しない一般群を区分した。なお、広義のひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群別の集計は、有効回答者数（n）から「無回答」を除いて行った。

広義のひきこもり傾向群 = 「外出頻度」と「ひきこもり開始後の期間」の両方ついて、下の【該当が必要な項目】を選んだ者から、「ひきこもりのきっかけ」、「自宅をよくすること」の設問で【上記の該当者から除く項目】を選んだ者を除いた者

【該当が必要な項目】

外出頻度
普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
自室からは出るが、家からは出ない
自室からほとんど出ない

ひきこもり開始後の期間
6ヶ月～1年未満
1年～3年未満
3年～5年未満
5年～7年未満
7年以上

【上記の該当者から除く項目】

ひきこもりのきっかけ
病気
妊娠した
その他（自宅仕事、育児）

自宅をよくすること
家事・育児をする

ひきこもり親和傾向群 = 下の表の項目のに4つとも「はい」と答えた者、及び3つは「はい」で1つのみ「どちらかといえばはい」と答えた者の合計から「広義のひきこもり群」を除いた者

家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

(参考) 内閣府調査の定義

○ 広義のひきこもりの定義

「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」であって、現在の状態となつて6ヶ月以上の者から、「現在の状態のきっかけ」で「病気」のうち統合失調症又は身体的な病気、または「その他」のうち自宅で仕事をしていると回答をした者と、「ふだん自宅にいるときによくしていること」で「家事・育児をする」と回答した者を除く。

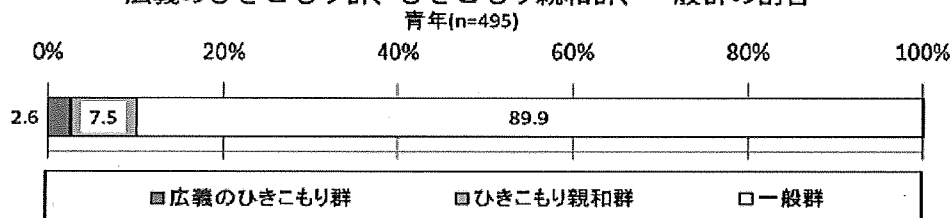
○ ひきこもり親和群の定義

「家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる」「自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある」「嫌な出来事があると、外に出たくなくなる」「理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う」の4項目が、すべて「はい」又は1項目のみ「どちらかといえばはい」と答えた者から「広義のひきこもり群」を除いた者。

ア 広義のひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群の割合

19～29歳の青年の有効回答の2.6%がひきこもり状態にあり、県全体の19～29歳の年代に約1600人のひきこもり状態のかたがいと推計されます。

広義のひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群の割合



イ ひきこもりのきっかけ

【問】

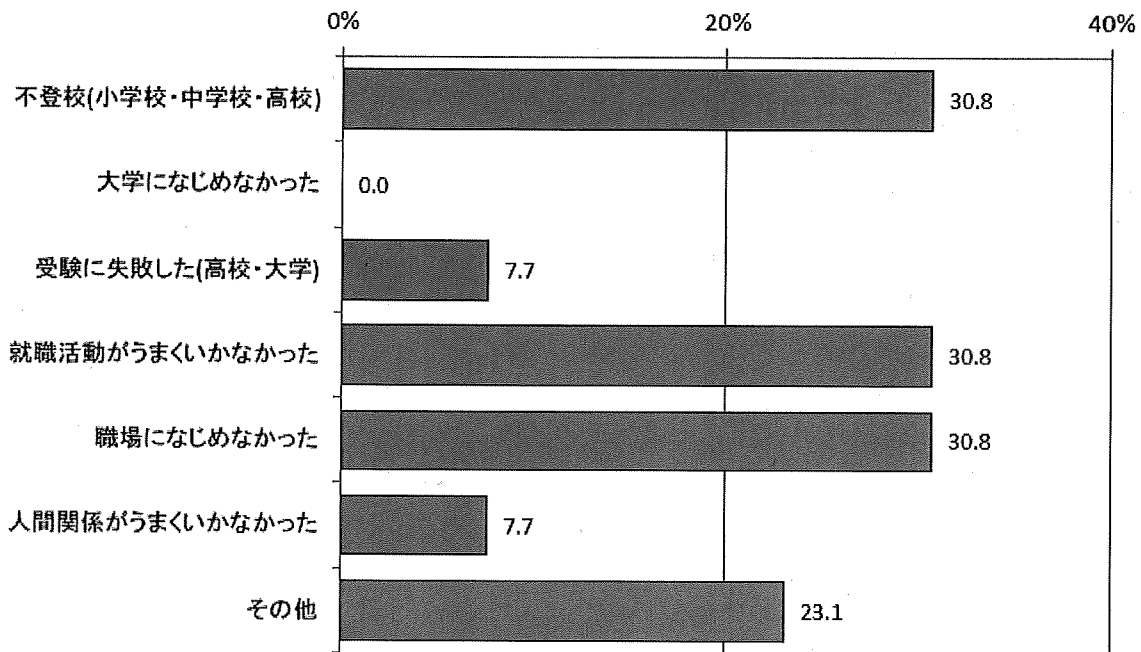
普段の外出頻度について、5～8に○をつけた方のみ、回答してください。現在の状態になったきっかけは何ですか。次の中からあてはまる番号をいくつでも選んで○をつけてください。

<参考> 普段の外出頻度の選択肢 5～8

- 5 「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」
- 6 「普段は家にいるが近所のコンビニなどには出かける」
- 7 「自室からは出るが、家からは出ない」
- 8 「自室からほとんどでない」

「広義のひきこもり群」のひきこもりのきっかけは、「不登校」「就職活動がうまくいかなかった」「職場になじめなかった」がともに30.8%で最も多かった。
 全国調査では、「その他」を除いて多い順から「職場になじめなかった」「病気」がともに23.7%、「就職活動がうまくいかなかった」20.3%、「不登校」「人間関係がうまくいかなかった」がともに11.9%であった。

広義のひきこもり群 ひきこもりのきっかけ n=13



ウ ひきこもり状態になってからの経過年数

【問】

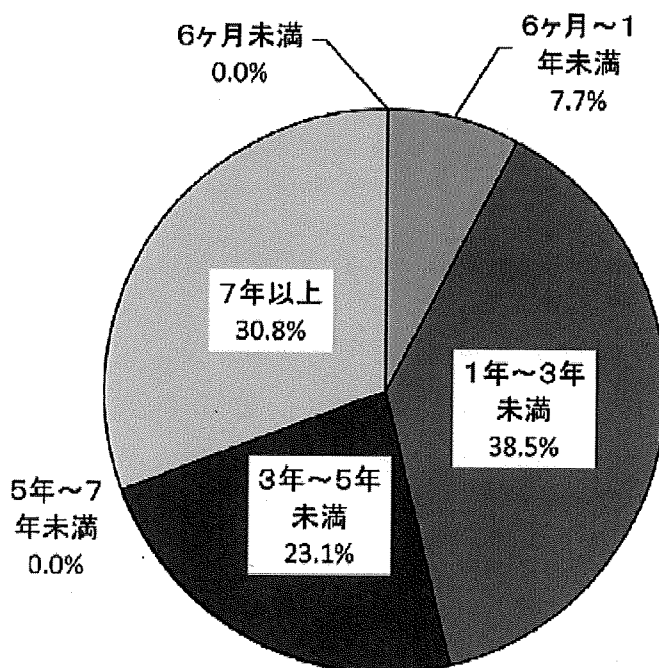
普段の外出頻度について、5～8に○をつけた方のみ、回答してください。現在の状態になったきっかけは何ですか。現在の状態となってどのくらい経ちますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

<参考>普段の外出頻度の選択肢 5～8

- 5 「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」
- 6 「普段は家にいるが近所のコンビニなどには出かける」
- 7 「自室からは出るが、家からは出ない」
- 8 「自室からほとんどでない」

ひきこもり状態になってからの経過年数は、多いものから順に「1年～3年未満」が約4割、「7年以上」が約3割、「3年～5年未満」が約2割であった。

広義のひきこもり群 ひきこもり状態になってからの経過年数 n = 13



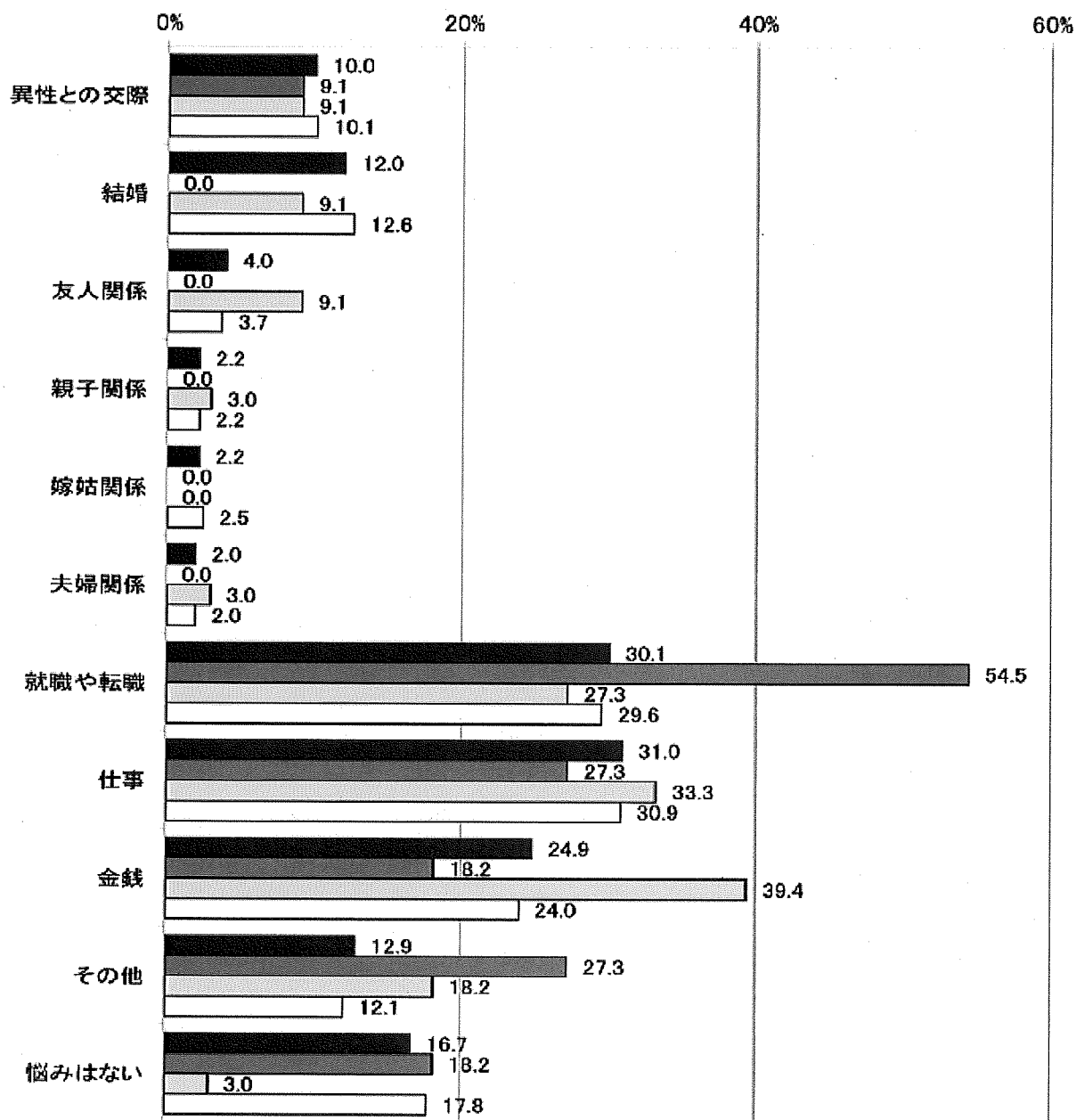
エ 悩み

【問】

最近、あなたが悩んでいることは何についてですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

一般群で一番多かったのは「仕事」であり、「就職や転職」「金銭」と続いている。広義のひきこもり群では「就職や転職」「仕事」「金銭」の順である。ひきこもり親和群では「金銭」「仕事」「転職や就職」と続いている。

悩 み



■全体 n=449 ■広義のひきこもり群 n=11 □ひきこもり親和群 n=33 □一般群 n=405

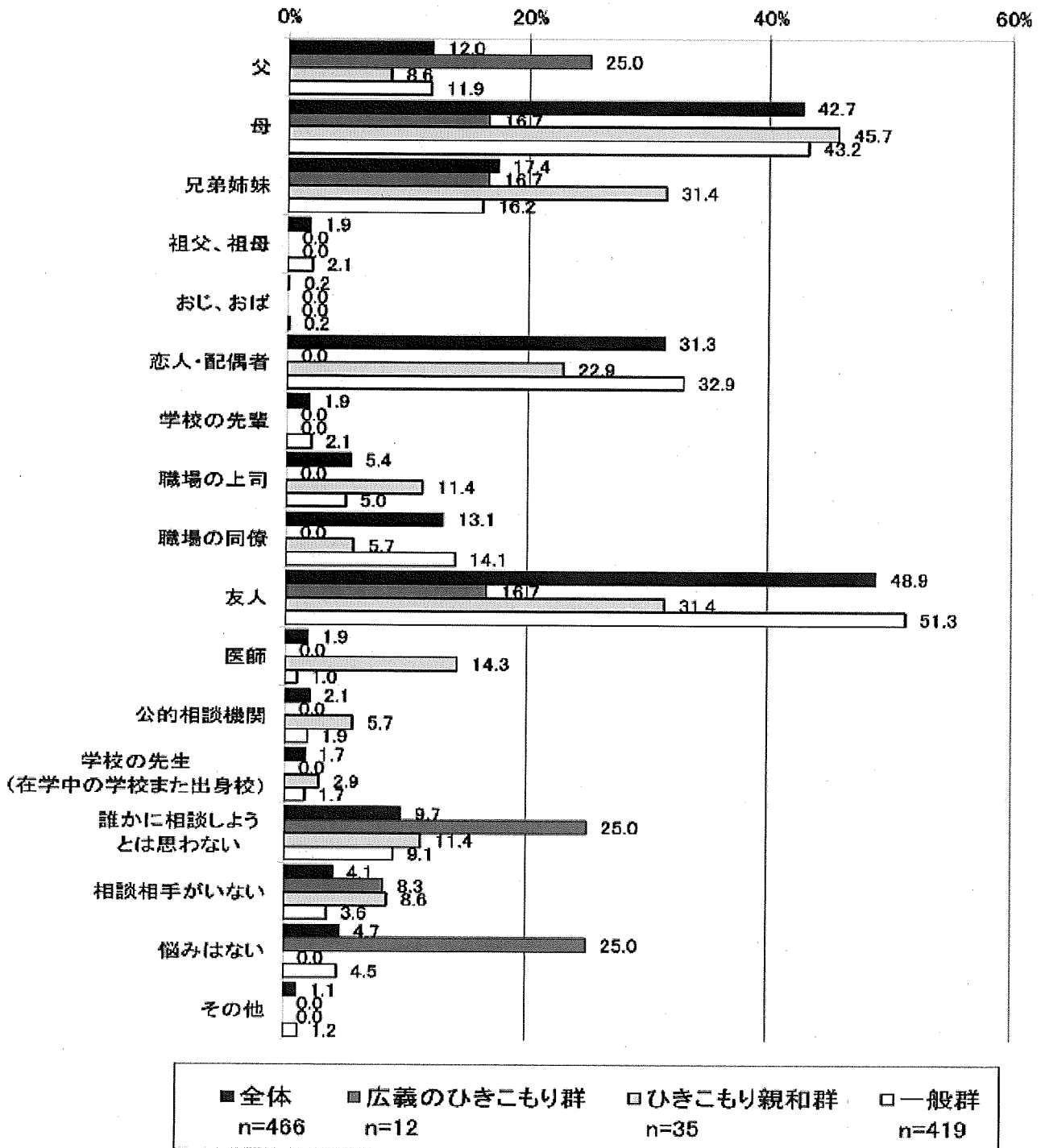
オ 悩みの相談相手

【問】

あなたは、悩みを誰に相談していますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

一般群で一番多いのは「友人」であり、次に「母」、「恋人・配偶者」と続いている。
 広義の一般群では「誰かに相談しようとは思わない」と「悩みはない」が同ポイントで並んでいる。
 ひきこもり親和群は一番多いのは「母」、次に「兄弟姉妹」と「友人」が同ポイントで並んでいる。

悩みの相談相手



「平成23年度鳥取県青少年育成意識調査報告書【概要版】」

平成24年3月発行

鳥取県福祉保健部子育て王国推進局青少年・家庭課

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220

電話 0857(26)7076

※本報告書の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを上記あてにお送りください。